

！立ち上げれ！ぼくらの復興プロジェクト

復興に向けて子どもたちも動き出しました。仙台市の小中学校では、みんなの力を結集した故郷復興プロジェクトに取り組んでいます。また、それぞれの学校でも、多くの支援を受けながら様々な復興プロジェクトが行われています。

1 学校の力結集！ 児童生徒8万人の思いをつないだ応援旗

震災からおよそ1年となる2012年（平成24年）3月4日、復興を願い市内の全小中学校で作成した応援旗189枚が、青葉区のクリスロード商店街にかかげられました。

応援旗お披露目のセレモニーでは、代表生徒が「震災から立ち上がろうという思いをこめた。多くの人に見てもらい、勇気と元気を伝えたい。」とあいさつしました。

この取り組みは、「復興へ！学校の力結集！」をスローガンにスタートした「児童生徒による故郷復興プロジェクト」の一つです。

各学校の代表が「故郷復興サミット」に集まり、震災を通じて感じたこと、学校ごとの活動を通して改めて気付いたことを話し合う中から実現した活動です。



商店街に掲げられた応援旗



プロジェクト委員による話し合い



プロボノ活動（※）の協力で完成した応援旗（全学校の旗を集めて作られた）

願いの実現を支援したプロボノ活動（※）

復興に向けた話し合いの中から「応援旗をデジタル化したい。」「区ごとに応援旗で一つの文字をつくりたい。」という願いが生まれました。しかし、課題が多く難しいと考えられました。

デジタル化を実現できたのは、専門的な知識や技術を持つ方々によるボランティア活動（プロボノ）があったからです。

プロであるiSP（情報支援プロボノ・プラットフォーム）のみなさんの協力を得ることで、各校の応援旗で形作った「絆」「笑」「光」「友」四つの文字に音楽を重ねた「デジタル応援メッセージ」が完成したのです。



応援旗をさつえい



コンピュータでデジタル処理

2 学校ごとの復興プロジェクト（七郷小の取り組み）

沿岸部に位置する七郷小学校は、震災によってプレハブ校舎がこわれ、学区の一部には津波がおし寄せました。暗い気持ちにせずんでいた子どもたちでしたが、全国や海外から届いた多くのはげまして、復興への一歩をふみ出しました。

夏も終わりのころ、アサガオとヘチマが校舎4階にまで伸び、緑のカーテンが完成しました。5年生が、復興に取り組むNPOの方々の協力によって作り上げたものです。すずしい緑のカーテンは、学校に来られた方の心をいやしました。ヘチマの実はタワシにしてお世話になった方々にさしあげ、まわりを元気にしていきました。



アサガオとヘチマによる緑のカーテン

? 考えよう

○復興のために自分たちができることを話し合ってみましょう。